

留守本部への連絡と買い出しのため後藤氏と栗チャンが新穂高へ下った。その夜は風呂に入ったり、酒をタツプリ飲んだり、夜更かしで騒ぎ、小屋の方には迷惑をかけたしまった。

1月3日(曇)

へタイム 穂高平小屋 8:00
ロープウェイ駅 8:30 9:35
三島 21:30

毛利リーダーは迎え酒が効きすぎて、フラフラ。渡辺君がひとりで毛利氏の荷物を持ち、抱き抱えるように下りてきた。先頭との差が小1時間であった。車を新穂高へ回送してくれた山本さんは7時半には着いていたのだが、われわれがいらないので心配して、留守本部に幾度も電話を入れてくれた。たこのこと。帰途は正月のUターン渋滞も始まり、12時間かかって三島に無事到着。

私は、冬の北鎌尾根をより多くの三島登山の仲間と登る、というのが三島登山結成以来の夢だった。7名のパーティーの力と、私たちを支えてくれた登山の仲間たちに改めてお礼を言いたい。ありがたう。

【今回の合宿の流行語】

1. 肩まで貸して
2. 隠し酒
3. ニンニクと牛サシ (89年3月26日発行機関紙「くるゆり」17号に収録。文中一部加筆しました。)

解説

北鎌尾根は会として剣岳の前にどうしても解決したいルートだっ

第17期冬山合宿

甲斐駒ヶ岳

後藤 隆徳

2966m

●戸台 丹溪山荘 赤河原 6合目石室 甲斐駒ヶ岳 黒戸尾根 竹宇駒ヶ岳神社 (袴田哲司は頂上より双児山経由北沢峠へ)

▽89年12月29日 31日
▽C.L.後藤隆徳 (42) 袴田哲司 (26)

『とりくみ』春山合宿の事故を踏まえて、誰でも登れる冬山登山入門コースの甲斐駒ヶ岳、仙丈岳を選び、ベテランと共に新人、初心者の雪上技術のレベルアップを目的に計画されたが、対象の会員は諸般の事情でほとんど不参加となり、今後に課題を残した。

た。ここ数年の新穂高方面、横尾尾根等の冬山はその布石であり、会もその目的に向かい意識をもつて邁進してきた。メンバー的にはこれ以上ない三島登山最強かつチームワークのとれたパーティーで、例えば1日の大あらしにも微動することなく、悠々と大カラオケ大会をやっていたエピソードがある。

にいろいろ工作されたが、意欲不足、体調不良、日程不具合などで結局全員不参加となった。今回の冬山合宿は、昨年までB隊だった会員にワンステップ上の山を登ってもらった絶好のチャンスであったが、それだけに対象会員の不参加は残念であり、改めてわが会の力の無さが浮かび上がった。

私と袴田の車は中央道の須玉ICで降り竹宇に向かった。天気は快晴だったが、風が強く目の前に聳える甲斐駒ヶ岳は意外と雪が多く頂上付近で盛んに雪煙を上げていた。久しぶりの甲斐駒は懐かし、いろいろな思い出がよぎったが、それとは別に目は明後日の下降ルートを追っていた。

駐車場に私の車を置き袴田の車で再び戸台に向かう。中央道を走っていると暖かさと眠気が出る。思えば今は戸台に行くのにも便利になったものだ。昔はもちろん中央道もなかったし、夜行列車に揺られて夜明けに伊那北の駅に着きバスで戸台に向かったものである。

あの時、駅員さんが登山者1人ひとりに出してくれた「熱いお茶」の味は今でも忘れられない。昔は人々の心も実に温かったの

12月29日(晴)

へタイム 下土狩 9:00 戸台 14:20 (泊)

先発隊は私と袴田の2名だった。10月頃より準備が本格化し、参加希望の山口、長岡、青木、中村ら

である。それが今では車で3時間

45 丹溪山荘手前 6:40 赤河原

左に大きな滝を持つ支流を見送り